

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
1	心理学	1	2	<p>心理学は、心のはたらきを明らかにしようとする学問であり、観察や調査、実験のデータに基づいて、人間の情報処理に関するメカニズムや反応・行動のパターンなどを科学的に分析し、法則性を見いだそうとするものです。本講義では、皆さんの日常生活から医療・看護の現場への応用までを視野に入れ、人間関係や患者心理の理解の基礎となる、知覚、認知、学習、記憶、適応、発達、個体差といった一般的な心理機能に関する基礎的知識を習得し、自己および他者の心理について理解を深めることを目標に講義を進めます。なお、医療機関等において心理師としての実務経験を有する教員が授業を担当します。</p>
2	英語Ⅰ	1	1	<p>「共通テキスト（TOEIC問題集）」および「成美堂eラーニング」を継続的に進め、英語基礎力の向上および自律的な学習習慣の定着を目指す (AB : $\alpha \cdot \beta$) ヒスロップ (α) ・プラント (β) : This course will be taught at two different levels. ※能力別クラス分け ($\alpha \cdot \beta$) This course is designed to improve students' English communicative abilities in a healthcare setting. Students are expected to actively participate in lessons through involvement in pairwork and contribution to the group and/or class discussions. This course is conducted in English. (CD) 清野 溪（前半）： 英語でのプレゼンテーションを通して、自分の意見を発信するための英語表現、プレゼンテーション作成の基礎や関連単語の習得を目指す。また、各トピックに関するリサーチやプレゼンテーション準備を通して、チームワークとプロジェクトマネジメントを体験する。実務経験（一般企業における英語使用による海外業務）のある教員が担当する 堀内ちとせ（後半）： オンライン教材を用いて、英語の音と意味を結びつけることを中心に、素早く英語を理解・発信できるようになるための活動を取り入れた授業を、ICTを活用しながら双方向的に展開する。参加者全員での「学び合い」を目指す (必要に応じて、「対面」ではなく「遠隔」で実施する)</p>
3	英語Ⅱ	1	1	<p>「共通テキスト（TOEIC問題集）」および「成美堂eラーニング」を継続的に進め、英語基礎力の向上および自律的な学習習慣の定着を目指す (AB) 清野 溪（前半）： 英語でのプレゼンテーションを通して、自分の意見を発信するための英語表現、プレゼンテーション作成の基礎や関連単語の習得を目指す。また、各トピックに関するリサーチやプレゼンテーション準備を通して、チームワークとプロジェクトマネジメントを体験する。実務経験（一般企業における英語使用による海外業務）のある教員が担当する 堀内ちとせ（後半）： 科学系の教材を用いて、英語の音と意味を結びつけることを中心に、素早く英語を理解・発信できるようになるための活動を取り入れた授業を、ICTを活用しながら双方向的に展開する。参加者全員での「学び合い」を目指す (CD : $\gamma \cdot \delta$) ヒスロップ (γ) ・プラント (δ) : This course will be taught at two different levels. ※能力別クラス分け ($\gamma \cdot \delta$) This course is designed to improve students' English communicative abilities in a healthcare setting. Students are expected to actively participate in lessons through involvement in pairwork and contribution to the group and/or class discussions. This course is conducted in English. (必要に応じて、「対面」ではなく「遠隔」で実施する)</p>
4	人体形態学	1	2	<p>人体形態学は解剖学ともいわれ、正常な人体の構造とそれを構成している器官や組織の形態を総合的に理解し、学ぶ学問である。1年生の前期に集中して講義をする意義は、医療分野での専門知識と技術を修得するため、機能を学ぶ生理学と共に最も基本となる学問であるからである。解剖学は肉眼解剖学、組織・細胞学および発生学に大別されるが、将来の看護師、保健師として業務するうえで、特に必要と思われる肉眼解剖学分野に重点をおき模型標本なども使用しながら講義をすすめる。この授業は、ディプロマポリシー1、2の力を身につけることを目的としている。授業内で行う小テストはタブレット端末を使用しWeb上で実施、解答・解説を行う。なお、本科目は病院での実務経験を有する教員が担当する。</p>

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
5	人体機能学	1	2	生理学である人体機能学は体の機能の科学である。人の体には循環系、呼吸系あるいは中枢神経系といった生命を維持する上で必須な種々のシステムが協調的に複雑な働き合いをしている。代謝や恒常性に代表される生命活動のしくみの基礎について説明する。また、人体機能学は体温と体液の恒常性、血液、心臓、肺、消化器官、腎臓の機能、内分泌腺から産生される各種ホルモンの機能、さらに、神経系、運動機能、感覚器の働きを明らかにする。なお、本大学病院臨床検査部において臨床検査技師・臨床工学技士の実務経験を有する教員が授業を行う。
6	生活環境方法論	1	1	生活障害をもった人々が住み慣れた家や地域で生活するために、対象の状況に応じた適切な福祉用具の導入や住環境整備について基礎的な知識を学ぶ。なお、本大学地域包括ケア中核センターにおいて訪問看護、ふじたまちかど保健室で看護師の実務経験を有した教員が授業を行う。
7	スポーツ・健康科学	1	2	医療従事者になることへの意識づけとして、他者との情報共有や確認作業、相互理解を図るための手段であるコミュニケーション能力をチームスポーツを通して身につけることを目的とする。また、障がい者スポーツやユニバーサルスポーツを体験することにより、障がいの有無や年齢に関係なく、誰でも参加できるスポーツの意義や特性を学び、理解を深める。本授業では、チームスポーツにおける戦術のためのグループディスカッションや障がい者スポーツの経験により、自己表現ならびに相互理解能力を育てるとともに健康科学的見地から自己の体力評価し、将来の健康デザインを展望する初年次教育を行う。中等教育機関での保健体育科の実務経験を有する教員が実践的な生涯・障がいスポーツについて授業を行う。
8	微生物学	1	1	感染症の原因となる微生物にはどのようなものがあり、それがどんな特徴を持っているかを講義する。次いで、それらの微生物がどこにいるのかを知り、感染を未然に防ぐにはどうすれば良いか、伝播をくい止めるにはどうすべきかを説明し、さらにその方法として消毒や滅菌法、予防接種についても講義する。最後に臨床現場での微生物感染症の特徴を理解し、それにもとづいた看護業務のあり方を説明する。なお、本大学病院臨床検査部において臨床検査技師の実務経験を有する教員が授業を行う。
9	免疫学	1	1	免疫系は他の生体系にはないユニークな特徴をいくつも持ち、生命科学への知的好奇心をはぐくむためにもっとも適した学問領域の一つである。本講義では免疫系の機能的、構造的特異性を紹介しながら、免疫学の「面白さ」を講義する。具体的には、免疫学の基本的な概念を理解できるように説明し、さらに臨床応用について説明する。講義資料は講義資料配信システムにより学生のタブレット端末に配信し、適宜理解度を確認するための確認問題を実施する。また、理解度に応じた解説を行う。なお、本科目は病院で臨床検査技師の実務経験を有する教員が担当し、臨床に結びつく講義を実施する。
10	生化学	1	1	私達の身体は数多くの物質から成り立っており、それらがひとつとして無駄もなく代謝（合成と分解）を繰り返して生命活動を維持している。さまざまな疾患はその代謝活動に何らかの支障をきたした結果、引き起こされるものであり、その前提となる正常な代謝を理解する必要がある。「生化学」は、人体における代謝を化学的、栄養学的視点から捉えて研究され、発展してきた学問であり、人体の代謝を把握するための重要な分野であり、各種疾患の診断、治療に欠かせない基礎医学の知識を習得させることを目標に講義をする。なお、本大学病院臨床検査部において臨床検査技師の実務経験を有する教員が授業を行う。
11	栄養学	1	1	疾患を治療するにあたり病態の経過を左右する基礎的要因として適切な栄養管理が重要である事が認識され、今や全国の多くの病院でNST（栄養サポートチーム）が稼働している。NSTでは種々の医療技術スタッフがそれぞれの分野での高い専門性をアセンブルさせることで高度な機能を発揮させている。NSTメンバーとして参画する看護師はもちろん、担当する患者をNSTに依頼するか否かの発信は患者に一番近い看護師である事が多い。この講義では臨床で活用できる栄養学的要因を絞り、短時間で知識と考え方を習得する。なお、本科目は病院での実務経験を有する教員が担当する。
12	薬理学	1	1	薬理学の基礎理論ならびに各医薬品の作用機序、薬理作用、臨床用途、副作用および病態との関連について現場で役立つよう、臨床薬理に視点をおき講義する。なお、本大学病院薬剤部において薬剤師の実務経験を有する教員が授業を担当する。

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
13	病理学	1	1	病理学では病気の成り立ちや身体における病的変化がどのようになるのかを理解しなければならない。また多くの医学用語を習得することは重要である。これらの知識が卒業後の、臨床の場、即ち看護業務で直接に役立つ様に講義する。更に病理学に関する知識だけでなく、病理学と看護を関連づけて興味を持って学んではほしい。なお、本科目は病院での実務経験を有する教員が担当する。遠隔授業を実施する場合、ゆっくり、一語一語を丁寧に、講義資料は事前にmoodleに上げる。
14	診断のための検査学	1	1	よりよい治療と看護のためには、臨床検査について正しい知識を持つことが重要である。種々の病因とその臨床検査における検査値との関係、的確な検体採取法や保存法、および臨床現場即時検査point of care testing (POCT) について理解できるよう講義する。また、主要な健康障害に対する人間の反応を理解し、観察、診療の補助に結び付けられるようする。タブレット端末等を活用した双方向授業(ICT活用)を実施する。毎回の講義において適宜理解度を確認するための確認問題し、理解度に応じた解説を行う。なお、病院など医療機関において臨床検査技師の実務経験を活かし、基本的な臨床検査について講義を行う。
15	看護学概論	1	1	本科目は看護学の入り口に位置し、看護の対象である人を理解し基礎的な看護を実践できる能力育成のための土台となる。「看護とは何か」を考えるための材料を多様な側面から提供する。一例としては、看護の現状を知りながら、臨床現場の具体例を取り入れた授業や、より効果的な看護提供につながる研究についての授業を行う。最終的に、看護学に興味・関心をもってもらえることをめざす。病院において看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。
16	対人コミュニケーション	1	1	対人関係の基盤となるコミュニケーションの基礎について講義する。また、看護の対象との援助的な人間関係を形成するためのコミュニケーション技法についても講義する。さらに、実習に必要となるプロセスレコードの作成、カンファレンスの方法について演習を通して学修する。本授業は、看護専門職者として、臨床及び大学で実務経験を有する教員が授業を行う。
17	基本看護技術Ⅰ	1	2	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、人間にとての日常生活行動の意味を理解し、対象に応じた日常生活援助を実践するための看護技術について講義及び演習を行う。看護場面に共通する技術、日常生活援助技術を中心として、個人及びグループでの主体的学習により看護技術の修得を目指す。演習では、患者・看護師のロールプレイングを通して、人間の尊厳の尊重、援助的対人関係のあり方を理解するとともに、患者・看護師双方の安全・安楽を考慮した援助方法とその根拠を学ぶ機会を提供する。なお、看護師としての実務経験を有する本学科教員、及び第1教育病院において看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。
18	基本看護技術Ⅱ	1	2	本授業では、看護学概論・対人コミュニケーション・基本看護技術Ⅰで学んだ看護場面に共通する技術、日常生活援助技術を活用しつつ、医師の指示のもとに行われる注射や採血など診療に伴う援助を実施する上で必要な基礎知識について講義し、さらに基礎的な看護技術を修得できるよう演習を行う。この学修過程において、学生は患者・看護師双方の安全・安楽を重視し、根拠・原理に基づいた援助方法を理解し、それにに基づいた基礎的な看護技術を修得する。また演習では、患者・看護師のロールプレイングを通して、人を総合的に理解し、人権を擁護する看護の責任と役割、自律性を認識し、看護師として責任ある言動を意識して行うことを目指す。指導を担当する教員は、本大学病院看護部において看護師の実務経験を有する。新型コロナウイルスなど、感染症の防止のために対面授業のみではなく、一部遠隔授業で実施する場合がある。本科目で取得する一次的救命救急処置は本学が推進する防災教育の必須項目である。

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
19	看護過程展開論Ⅰ	1	1	看護の対象者のニーズに即した看護援助を実践するために、看護者は対象者の個別性や状況を科学的思考に基づき把握することが必要である。本科目では、紙上事例を用いて、看護の目的を達成するために対象者の健康上の問題と関連する要因を科学的思考で明らかにし、対象者に最適な看護を実践するための問題解決法を学ぶ。また、対象者に最適な看護を実践するために必要な基本的知識・技術・態度を修得する。講義資料は講義資料配信システムにより学生のタブレット端末に配信し、学習内容の理解度を確認するため、必要時Moodleを用いてミニテストを実施し、理解度に応じた解説を行う。本科目は、看護師としての実務経験を活かし、実践的な看護過程の活用方法について授業を行う。対面授業を行い、グループワークを通じて、様々な思考に触れることで学習を深める。
20	基礎看護学実習Ⅰ	1	1	本科目は臨床現場である病院において、入院している対象者の生活環境や療養生活の実際を知る機会とする。看護師の看護活動に参加することで看護者の役割、看護におけるコミュニケーションの重要性について学ぶ。また、実際に患者とのコミュニケーションを行うことで看護者と患者との関係について考える機会とする。第1教育病院及び第4教育病院において看護師の実務経験を有する教員、及び看護師としての実務経験を有する本学科教員が授業を行う。
21	地域・在宅看護学概論	1	1	高齢社会の加速、平均寿命の延伸、慢性疾患の増加、在宅医療の進歩、家族機能の変化などの日本社会の特徴を背景に、地域・在宅看護の必要性が高まっている。これらの社会背景と地域・在宅看護の歴史を踏まえ、地域・在宅看護の目的と理念を明らかにする。在宅療養者と家族の生活を支援する際の法制度や地域・在宅看護の倫理について説明する。なお、本大学地域包括ケア中核センターの訪問看護、ふじたまちかど保健室で看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。対面授業で実施する。
22	成人看護学概論	1	1	成人期にある人を全人的に理解するためにライフサイクルからみた成人の特徴について講義する。また、健康から健康障害が連続体であると捉え、環境や生活習慣と関連した健康問題を取り上げ、現代社会の特徴と照らし合わせて説明する。さらに、成人看護学の対象となる人々の援助に必要な理論と看護診断の概要を理解し、成人看護の役割を学ぶことができるよう進め。本大学病院看護部において看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。
23	老年看護学概論	1	1	高齢者に焦点をあて、老化理論や発達課題を講義する。また、現在の超高齢社会の様相を、統計資料を用いて提示し、高齢者の自立と権利を守るために社会制度について解説する。さらに、老年看護の基本的考え方を講義する。看護師として実務経験を有する本学科教員が授業を行う。
24	小児看護学概論	1	1	小児看護の対象である子どもと家族について、子どもを取り巻く社会の状況、小児医療の現状、家族の状況などの視点から、子どもの健やかな育ちとその家族を支援する看護の基本を学修する。また、小児看護における倫理および子どもの最善の利益を理解し、子どもを主体とした看護を修得する。なお、小児専門病院において小児看護専門看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。
25	精神看護学概論	1	1	精神医療の歴史的変遷を通して、精神障がい者に対する偏見の背景や実態を学ぶ。また、精神看護を学ぶうえでの基礎となる理論や対象理解の視点を身につける。精神科病棟での実務経験を有する看護師免許を持つ教員が講義を行う。
26	人間行動科学	2	1	人間行動科学は、「人間の行動を総合的に理解し、予測・制御しようとする実証的経験に基づく科学」であり、保健・医療のみならず、社会学や経済学などとも関連する大きな領域である。本講義では、人間の行動を理解するための理論や知識を、保健行動を切り口に学んでいく。それぞれの人に合った健康的な生活を送るにはどうしたらよいのか。どんな工夫や心理学的技法を用いると自分や他人の行動や習慣を効果的に変えることができるのか。やる気スイッチを入れるにはどうしたらよいのか。自らの習慣行動を振り返り、不適応行動をより適応的な行動へと変化させるのに必要な知識や技術を実践的に応用することにより、体験的な学習をめざす。さらに、患者や地域住民を対象とした生活習慣病およびストレス関連疾患の予防や健康づくり活動における行動科学の応用事例や課題についても学習する。なお、医療機関等において心理師としての実務経験を有する教員が授業を担当する。

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
27	社会福祉論	2	1	医療専門職として社会福祉を理解することを目的とする。社会福祉の理念を理解したうえで、社会福祉の歴史、対象、法制度、サービス体系等について基本的な知識を習得する。さらに、対人援助職の役割を理解するため、講義に一部演習を組み込み模擬体験を行う予定である。なお、一部の講義は福祉施設の施設長など実務経験を有する教員が授業を行う。新型感染症の蔓延や地震等の事情で遠隔の講師の来訪が困難な場合が生じた場合を除き、教室での対面授業で実施する。
28	看護のための病態生理	2	1	看護実践において、対象者の健康状態が身体・精神面及び日常生活行動にどのような影響を及ぼすかを把握し、対象者に必要な看護援助は何かを考えることが必要である。本科目では、その基礎的知識として、看護の対象者に生じている症状や徵候が、どのような原因・誘因によるか、臨床的に重要な症状・徵候をとりあげ、その定義・発現メカニズムについて学習する。タブレット端末等を使用して共有スライド上に書き込みする。本大学病院での看護師・診療看護師の実務経験を活かし、実践的な病態生理のアセスメント、看護課程の展開について授業を行う。
29	成人期・老年期疾病論Ⅰ	2	1	成人期・老年期にみられる循環器・呼吸器・腎泌尿器・自己免疫の代表的な疾患の疫学、成因、症状と病態生理、検査と診断、治療、予防法および予後などについて講義する。疾患についての特異な症状や経過について講義する。なお、本大学病院において医師の実務経験を有する教員が授業を行う。covid-19などの感染症の影響により遠隔講義となる場合あらかじめメールなどで通達する。
30	成人期・老年期疾病論Ⅱ	2	1	成人期・老年期疾病論Ⅱでは、成人期・老年期における健康障害をもつ人々への個別な看護を実践するために、脳神経外科学、皮膚科学、整形外科学、婦人科学、眼科学、耳鼻咽喉科学における代表的な疾患について、疾患の成り立ち、病態生理、検査、治療についての理解を深める。それぞれの障害が日常生活とどのような関連があるかを考え、健康から疾患に至る変化のプロセスを理解する。なお、本大学病院において医師の実務経験を有する教員と看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。本年度は原則として対面で実施する予定であるが、新型コロナウイルス等の感染状況によっては、遠隔授業に変更される可能性がある。
31	成人期・老年期疾病論Ⅲ	2	1	成人期にみられる、血液、内分泌・栄養・代謝系、消化器の代表的な疾患の疫学、成因、症状と病態生理、検査と診断、治療、予防および予後等について講義する。なお、本大学病院において医師の実務経験を有する教員が授業を行う。本年度は原則対面での講義を予定しているが、感染の状況に合わせて遠隔へ変更する可能性がある。
32	小児期疾病論	2	1	新生児のみならず、小児全体でも疾病構造は成人と小児では異なる部分が多く、内科とは別に習得すべきものである。また、産科学ともかかわりが深いため、内科学と産科学を併せて理解しておく必要がある。小児外科では各器官の発生を含め疾患の特徴を理解し、小児における外科的治療が単に数年後の生存を目指すものではなく、心身になんら障害なく成長し、成人できることを目的にしていることを理解する。なお、本大学病院において医師の実務経験を有する教員が授業を行う。
33	コンプリメンタリーセラピー	2	1	さまざまな健康問題に対処するためのホリスティックアプローチであるコンプリメンタリーセラピーの概念と歴史的背景および現状を概観し、看護介入に有効な技法を学ぶ。コンプリメンタルセラピーの歴史的背景、ホリスティックアプローチの方法、対象者に応じた有効な技法、コンプリメンタルセラピーの臨床応用を講義する。演習ではアロマテラピーでは精油の扱い方、ハンドタッチの基本、目的に応じた精油の選択、臨床場面での実践法を体験する。また、リンパドレナージの実際を学ぶ。本科目は、授業内容（リンパマッサージ、アロマテラピー）によって、該当の有資格かつ実務経験を有する者が担当する。

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
34	看護過程展開論Ⅱ	2	2	本科目ではフィジカルアセスメントの基礎について講義する。フィジカルアセスメントは看護の対象の身体面を把握する上で必須の技術である。演習では学生同士でフィジカルイグザミネーションを活用することにより、健康時の身体状態についてアセスメントできることを目指す。フィジカルアセスメントに関する講義資料は講義資料配信システムにより学生のタブレット端末に配信し、毎回の講義において事前学習状況を確認するためMoodleを用いてミニテストを実施し、理解度に応じた解説を行う。また紙上事例に対し、学生が主体的に看護過程を活用し事例展開を行い、紙上事例の看護問題を抽出し、看護計画を立案する。さらに学生同士でのロールプレイを用いて、その看護計画の一部を実施し、評価する。本科目は、本大学病院看護部及び中央診療部での看護師・診療看護師の実務経験を活かし、看護師に必要な臨床判断能力の基礎となるアセスメントおよび看護実践について授業を行う。
35	看護倫理	2	1	看護職者は、看護の現場にある倫理的課題に気づき、課題を解決するために現状を分析し、何をすべきか判断する能力が求められる。本科目では、看護専門職として看護を実践するために備えるべき倫理的視点を、看護職の行動の基盤となる法的責務、倫理原則、職業倫理規定を理解し学修する。看護実践において不可欠な看護倫理を講義や演習を通じて学ぶ。なお、臨床、大学で実務経験のある看護学教員が授業を行う。
36	基礎看護学実習Ⅱ	2	2	本科目は2度目の臨地実習であるが、はじめて入院患者を受け持ち、患者との関わりを通して看護実践を学ぶ機会である。この実習では、対象を生活者としてとらえ、アセスメントに基づいた日常生活援助の実施と臨床における看護の実際を知ることにより、基礎的な看護実践能力の習得を目指す。なお、本科目は看護師の実務経験を有する教員が、臨床現場での実務経験を活かし、日々変化する患者への看護実践について授業を行う。
37	地域・在宅看護学方法論	2	2	高齢社会や疾病構造の変化、療養者のQOLの追求と療養生活についての自己決定、家族機能の変化などの背景から、地域・在宅看護の必要性は高まっている。そういった中で地域・在宅看護に必要となる、主な日常生活援助方法や医療処置を伴う看護援助方法を明らかにする。対象は、小児から高齢者、慢性期からターミナル期など、在宅療養者の看護に必要な知識・技術を統合し基礎的能力を身につけられるようになる。なお、本大学病院看護部などにおいて看護師等の実務経験を有する教員が授業を行う。ICT活用：講義において、e-learningを用いて適宜理解度を確認する確認問題を実施し、解説を行う。
38	地域・在宅看護学演習Ⅰ	2	1	様々なライフステージの療養者は、疾病を抱えていても住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を送ることを望んでいる。そのため、療養者及び家族の思いや望みに寄り添い、療養者・家族が中心の治療・看護ケアを提供する事が重要となる。本演習では、模擬事例を通じて、療養者・家族の健康課題を特定し、療養者・家族の持てる力を引き出すための看護援助を計画する。また、グループワークを実施することによって事例展開に関する学びを深める。本大学中核センターにおいて訪問看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。ICT活用：講義において、ICTを利用した発表会を行う。発表会後に理解度に応じた解説を行う。
39	成人急性期看護方法論	2	2	成人期の急性期看護として、手術を受ける対象、生命に危機的な状況にある対象の看護について、総論ならびに機能障害別に学修する。具体的には、成人期の患者とその家族の特徴を理解し、生体反応および理論に基づいてリスクを予測し、生命維持および回復の促進に向けて、臨床判断し看護実践するため基盤となる知識や技術を学ぶ。また、生命の危機的な状況下の患者や家族に起こりうる倫理的問題と意思決定を支える援助について学ぶ。授業では、グループの学び合い、臨床判断ならびに実践に向けた演習の機会を設ける。授業を通して、協同的な学びの意義も体得し、多角的な視点で看護を考えられるように教員は支援する。授業は、病院など医療現場で看護師としての実務経験を有する教員が担当する。

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
40	成人慢性期看護方法論	2	1	成人期にあり、慢性的に経過する健康障害をもつ患者の特徴や、患者が抱える身体的・心理的・社会的課題について概説する。また、罹患患者の多い代表的な疾患を取り上げながら患者や家族の特徴、および具体的な看護のポイントを説明し、セルフケアを促進し、病をもちながらその人らしい健康生活を維持するための支援方法について講義する。また授業では、グループ学習の手法を用いて、慢性疾患の特徴と看護の役割、心理的特徴、患者・家族の生活に及ぼす影響、セルフマネジメントを目指す看護実践などについて理解を深める。なお、病院など医療機関において看護師の実務経験を有する教員も授業を行う。一部講義において、適宜理解度を確認するための確認問題をMoodleを用いて実施し、理解度に応じた解説を行う。
41	成人終末期看護方法論	2	1	終末期にある成人患者と家族の特徴と対象の看護について講義する。終末期ある成人患者の特徴の理解、終末期におけるセルフケアの促進、その人らしい生活維持に向けた看護、意思決定支援、グリーフケア、多職種連携を含めた終末期の看護方法について講義する。授業では、事例を用いた意思決定支援の方策や終末期に遭遇する場面設定を通じ、倫理的問題も含めた患者と家族への看護、チーム医療についてグループで学び合う機会を設ける。なお、病院など医療機関において看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。
42	成人看護過程展開論	2	1	成人期における健康障害をもつ対象者その人と家族の紙上事例を通して看護過程が展開できるように授業を行う。既習の看護過程の展開の方法を基盤にして、成人看護学の専門分野の科目で学修した理論を含めた知識や技術、剖生理学や疾病学などの専門基礎分野の知識などを統合してアセスメント・看護診断・看護計画立案ができるように学修をすすめていく。教員はファシリテーター的役割を担い、学生はグループでの学修の中で共に学び合い、主体的に学ぶこと重視して授業を展開する。なお、病院など医療機関において看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。
43	老年看護学方法論	2	2	老年期にある対象に対して、加齢に伴う心身機能の変化と主な症状から高齢者のアセスメントの特徴、加齢と健康障害の程度に応じた看護に必要な知識・技術について講義する。演習では、看護場面で遭遇することの多い高齢者の機能低下や疾患を理解し、看護に必要な技術演習を行い、他者に依存しなければならない高齢者の気持ちや、看護者としての対応について明らかとする。なお、看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。
44	成長発達保健論	2	1	子どもの各発達段階の成長・発達の特徴および各発達段階の健康な日常生活のあり方や支援方法について学習する。なお、小児専門病院において小児看護専門看護師または看護師の実務経験を有する教員、および本大学病院看護部において看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。
45	小児看護学方法論	2	1	子どもに特徴的な健康問題と、病気が子どもや家族に及ぼす影響について論じるとともに、様々な健康レベルにある子どもとその家族に必要な看護支援について説明する。■本科目では、小児専門病院において看護師の実務経験を有する教員、小児専門看護師としての実務経験および本大学病院において看護師の実務経験を有する教員、移植コーディネーターが授業を行う。また、国内外における子どもの支援の経験をもつチャイルド・ライフ・スペシャリスト、病院外からの支援の経験をもつ看護師、お子さんの療養生活を支えたご家族の体験談を活用し、広い視野から小児看護について考える。
46	母性看護学概論	2	1	動物・植物の雌雄、人間の女と男の共通性と特徴を説明し、一生を通じた女性の発達課題や女性を取り巻く社会・物理的環境との関係から女性の健康について講義する。また、母性の保健指標とその変遷、基本となる法律を講義し、母性看護の目的と方向性を明らかにする。なお、病院など医療機関において看護師（助産師）の実務経験を有する教員が授業を行う。
47	母性看護学方法論Ⅰ	2	1	妊娠に至るプロセス及び妊娠・分娩期における母体と胎児、新生児の身体的变化、心理社会的特徴を理解し、正常な妊娠・分娩経過を送るために必要な健康管理方法や日常生活のあり方、看護技術、看護過程、看護の役割を学習する。また、母性機能が顕著である妊娠・分娩における母親および胎児・新生児に起こりやすい危機状態を理解し、危機状態への対応と健康回復のための看護について学習する。病院など医療機関において看護師（助産師）の実務経験を有する教員が授業を行う。

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
48	母性看護学方法論Ⅱ	2	1	産褥期における母体と胎児、新生児の身体的変化、心理社会的特徴を理解し、正常な経過を送るために必要な健康管理方法や日常生活のあり方、看護技術、看護過程、看護の役割を学習する。また、産褥期における母親および胎児・新生児に起こりやすい危機状態を理解し、危機状態への対応と健康回復のための看護について学習する。講義資料は、講義資料配信システムにより学生に配信し、講義に対する内容確認はMoodleにて行う。病院など医療機関において助産師の実務経験を有する教員が授業を行う。
49	精神保健看護論	2	1	精神保健看護における援助の対象を理解するために必要な視点や、精神保健看護における援助の特徴を理解し、援助を行う上で求められる基礎的な知識や介入の方法を修得する。本科目は精神科病院での実務経験を有する教員が、精神保健福祉および実践的な精神科看護について授業を行う。
50	家族と看護	2	1	看護とは患者個人のみではなく、家族全体を対象とした実践が求められる。つまり家族は看護ケアの対象である。本講義の目的は、「家族を対象とした看護実践」とはどうあるべきか、また、その実践に必要な知識・技術について理解し、対象家族の視点に立った援助姿勢を身に着けることである。知識としては、家族とはどういうものなのかという対象理解を通して、家族に対して各自が抱く固定概念に気付くことが重要である。そのために家族看護学および関連学問領域の理論や概念、家族看護過程について学ぶ。そして現代社会における家族の機能や抱える問題の多様性を知り、そのうえでどのような看護の実践が求められるのか、看護学の領域別の視点から講義を行う。ICT（タブレット端末）を活用し、授業資料の配信、対面式の授業による双方向型授業を行う。本科目は、病院など医療機関、地域において看護師の実務経験を有する多領域の看護学教員によりオムニバス形式で講義を行う。
51	公衆衛生看護学概論	2	1	公衆衛生学及び公衆衛生看護の概念を踏まえ、保健師として個人、家族、集団の健康課題を解決する考え方や予防活動について説明する。講義資料は講義資料配信システムにより学生のタブレット端末に配信し、レポート提出はMoodleを用いる。なお、保健所・保健センター・企業等において保健師の実務経験を有する教員が、地域の保健活動について授業を行う。
52	学校保健・産業保健	2	1	学校保健・産業保健における理念と目的、関係する法律や制度とシステムを理解し、看護職、関連する職種の役割や機能、活動の展開方法について講義する。講義の開始前には、健康に関するトピックスやニュース等学生間でディスカッションを行う。なお、企業等において保健師の実務経験を有する教員が授業を行う。
53	公衆衛生看護実践論Ⅰ	2	2	母子保健対策・成人保健対策・高齢者保健対策など、具体的な保健指導の実際を講義する。保健活動に必要なポピュレーションアプローチやハイリスクアプローチ方法を説明する。講義資料は、講義資料配信システムにより学生のタブレット端末に配信する。なお保健所・保健センター・企業等において保健師の実務経験を有する教員が、地域の保健活動について授業を行う。
54	公衆衛生看護実践論Ⅱ	2	2	結核感染症対策・難病対策・障害者対策等疾病管理の実際を学ぶとともに、広域的に保健活動を開拓するための方法を理解し、そのアプローチ方法について講義する。講義資料は、講義資料配信システムにより学生のタブレット端末に配信する。なお、保健所・保健センター、福祉施設等において保健師などの実務経験を有する教員が、地域の保健福祉活動について授業を行う。
55	生活環境方法論	3	1	生活障害をもった人々が住み慣れた家や地域で生活するために、対象の状況に応じた適切な福祉用具の導入や住環境整備について基礎的な知識を学ぶ。なお、本大学地域包括ケア中核センターにおいて訪問看護、ふじたまちかど保健室で看護師の実務経験を有した教員が授業を行う。

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
56	放射線医学	3	1	今日の医療では、X線やガンマ線など電離作用を有する放射線のみならず、超音波や電磁場など非電離放射線が広く利用されている。このような各種放射線を用いた画像診断や放射線治療の学術基盤となる放射線医学は、放射線診断学、放射線治療学、核医学に大別されるが、本講義ではそれらの基礎的知識と臨床について、放射線科医や診療放射線技師教員によるオムニバス形式の講義を展開する。また、放射線診療においても重要な役割を果たす看護師として認識しておくべき放射線による人体への影響や各種画像検査の安全性についても教授する。なお、本大学病院放射線部において放射線科医師、診療放射線技師の実務経験を有する教員が授業を行う。場合により遠隔授業で実施する。
57	在宅看護学演習	3	1	在宅看護とは療養者が暮らしている場所（生活の場）での看護である。様々なライフスタイルの療養者は、疾病を抱えていても住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を送ることを望んでいる。そのため、療養者及び家族の思いや望みに寄り添い、療養者・家族が中心の治療・看護ケアを提供する事が重要となる。この演習では、模擬事例を通じて、療養者・家族の持てる力を引き出し、生活を維持する看護援助を環境面・経済面から創意工夫して演習を行う。本大学中核センターにおいて訪問看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。
58	在宅看護学実習	3	2	慢性疾患や難病等を有する人々の生活状況と在宅ケア（家族介護問題を含む）の実際を通して、在宅看護の役割を学ぶ。また、対象とその家族を含めた訪問計画を立案し、実施及び評価までの一連のプロセスを体験して在宅看護の基本的能力を養う。本大学地域包括ケア中核センターの訪問看護、ふじたまちかど保健室において看護師の実務経験を有する教員が実習指導を行う。
59	成人看護学演習	3	2	本科目は、演習やグループワークを通して、成人期における健康障害をもった人々の経過別事例を用いて問題解決能力を養い、対象の状況にあった適切な臨床看護技術や看護援助の実際を体験できるようにする。また、これまでに学習した知識を看護実践に統合し活用できるように進める。病院などの医療機関において看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。タブレット端末を活用した双方方向の授業の実施も行う。
60	成人看護学実習（クリティカル・周手術）	3	3	成人期における周手術期およびクリティカルな状況にある患者およびその家族の早期回復、セルフケアを促進するための看護実践を会得する。さらに、実践を通して探究的态度を身につけ、専門職としての資質を体得する。病院など医療機関において看護師の実務経験を有する教員が実習を行う。
61	成人看護学実習（セルフケア）	3	3	慢性疾患をもつ成人期の患者およびその家族が、セルフケアを促進し、その人らしい生活を維持するための看護援助を実践できる。さらに、実践を通じて探求的态度を身につけ、専門職としての資質を身につけることができるよう学習を支援する。病院など医療機関において看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。学内実習がある場合は、一部の実習を遠隔授業で実施する場合もある。
62	老年看護実践方法論	3	1	老年看護における看護過程の考え方について講義する。看護過程演習では、認知症をもつ高齢者と家族の事例を用いて、個人ワークやグループディスカッションを行い、生活機能に焦点をあてた目標志向型思考の習得を目指す。本科目は、看護師の実務経験を有する教員が授業を担当し、老年者に対する看護の実務経験を活かし、実践的な老年看護過程について授業を行う。
63	老年看護学実習Ⅰ	3	1	在宅で生活している老年者との関わりを通して、老年期の特徴と保健・医療・福祉の活動での看護の役割を理解し、必要な知識・技術・態度を修得する。なお、本大学病院看護部において看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
64	小児実践看護Ⅰ	3	1	子どもに特徴的な健康問題と、病気が子どもや家族に及ぼす影響について論じるとともに、様々な健康レベルにある子どもとその家族に必要な看護支援について説明する。▣ 本科目では、小児専門病院において看護師の実務経験を有する教員、小児専門看護師としての実務経験および本大学病院において看護師の実務経験を有する教員、移植コーディネーターが授業を行う。また、国内外における子どもの支援の経験をもつチャイルド・ライフ・スペシャリスト、病院外からの支援の経験をもつ看護師、お子さんの療養生活を支えたご家族の体験談を活用し、広い視野から小児看護について考える。
65	小児実践看護Ⅱ	3	1	子どもの健康上の問題や成長発達に応じた小児看護技術について、紙上事例を用いた看護過程の展開を通じて、看護判断の根拠となる知識や安全・安楽な援助方法を説明する。また、さまざまな状況にある子どもや家族に必要な援助について、子どもやその家族を総合的にアセスメントし、看護計画の立案を行い、ロールプレイ（RP）およびグループワーク（GW）を実施することで、看護上の問題を解決する適切な対応方法を明らかにする。本授業では、スマートフォンやタブレット端末等を活用して、看護技術を動画とe-learning（ナーシングスキルやMoodle）で積極的に理解度を確認、習得していくことを目指す。本科目は、小児看護の実務経験を有する教員が、本大学病院看護部での看護師および保育士の実務経験を活かし、実践的小児看護技術について授業を行う。
66	小児看護学実習	3	2	こども病棟、保育園において2週間の実習を展開する。入院生活を送っている患者を対象に、患者を取り巻く療養生活や人的環境を理解し、基本となる生活援助技術を対象に適した方法で実践するための基礎的能力を養うことができるように支援する。なお、小児専門病院において小児看護専門看護師または看護師などの実務経験を有する教員、および本大学病院看護部において看護師の実務経験を有する教員が実習指導を行う。
67	母性セルフケア看護Ⅲ	3	1	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に必要な基本援助技術の実際を学習する。褥婦（経腔分娩、帝王切開術）の事例でのペーパーペイシェントでの看護過程展開を実施し、ディスカッションや解説を通して事例展開に関する学びを深める。また本科目では、病院など医療機関において助産師の実務経験を有する教員が授業を行う。
68	母性看護学実習	3	2	妊娠期・分娩期・産褥期における母児の特徴と正常な経過を理解し、適切な母性看護を実践するための基礎的能力（知識・技術・態度）を修得する。また、家族関係や母性看護の継続性を学ぶ。本科目では、病院など医療機関において助産師の実務経験を有する教員が授業を行う。
69	精神看護学方法論	3	2	近年の精神科医療は、長期入院から地域での生活を支える短期入院へと変化している。入院患者の日常生活行動に対する援助だけではなく、地域での生活を継続するために必要な支援についての理解や実践が求められている。精神看護学方法論では、精神看護学概論・精神保健看護論で学んだ知識をもとに、セルフケア看護の視点に基づいた援助の方法や、地域で生活する精神障がい者の支援方法について理解を深める。なお、保健医療機関において看護師又は保健師の実務経験を有する教員が授業を行う。
70	精神看護学実習	3	2	精神科病棟において、入院患者との関わりを通してその人を理解し、対象に必要な看護実践を展開する。また、精神科通所施設において地域で生活する利用者の社会参加の実態にふれ、精神障害を持つ人の地域生活支援についての理解を深める。病院など保健医療機関において看護師・保健師の実務経験を有する教員が実習指導を行う。
71	国際看護	3	1	国際社会における健康問題や看護問題について理解を深めることを目的として講義を行う。グローバルな視点から人々の健康を理解し、看護師としての役割を發揮するために必要な基礎知識を学ぶ。なお、国際協力の実務経験を有する教員が授業を行う。
72	リハビリテーション看護	3	1	リハビリテーション医療およびリハビリテーション看護の定義、理念、特徴、対象を理解するために必要な知識について学習する。また、リハビリテーション看護が継続される場、社会制度、倫理的諸問題について考える。代表的な生活機能障害を取り上げ、その具体的な援助方法を学習する。なお、本大学病院看護部において看護師（助産師）の実務経験を有する教員が授業を行う。

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
73	地域診断論	3	2	地域診断の概念と目的を理解し、地域に頸在・潜在している保健・医療・福祉に関連する課題をアセスメント・診断するための理論や方法論を学び、演習を行う。人々の生活する地区／小地域、自治体や学校および事業場などの仕組みづくりの範囲を、支援対象（活動対象）としての地域と捉え、地域を把握するためのアセスメントの視点と方法の基本を学ぶ。地区踏査では実際に市内を踏査する演習を行う。一部講義は遠隔授業で実施する。演習は対面で実施する。なお、保健所・保健センター・企業等において保健師の実務経験を有する教員が授業を行う。
74	地域ケアシステム論	3	2	保健医療福祉計画の策定や自主グループの育成を通じ、地域サポートシステムの実際や、住民参加活動支援・育成の展開方法、組織的に解決するシステムについて説明する。講義資料は、講義資料配信システムにより学生のタブレット端末に配信し、演習はMicrosoft Teams、Moodleを用いて行う。なお、保健所・保健センター等において保健師の実務経験を有する教員が、地域の保健活動について授業を行う。
75	公衆衛生看護援助方法論	3	2	個人・家族・集団の健康の保持増進、人々が主体的に問題解決できる支援の特徴を講義する。演習では、事例学習を通して保健師が行う保健指導、家庭訪問の目的、特徴、プロセスを養う。なお、保健所・保健センター等において保健師の実務経験を有する教員が授業を行う。
76	健康教育論	3	2	ヘルスプロモーションの理念に基づき、健康教育の定義・理念について学習し、健康教育の一連のプロセスにおける基本技術を習得する。健康教育の企画、計画、実施、評価を実践し、看護の実際に生かすことができるようとする。なお、保健所・保健センター・企業等において保健師の実務経験を有する教員が授業を行う。
77	アセンブリⅢ	3	1	3年次に行うアセンブリ教育 (IPE : Interprofessional Education) である。アセンブリⅢでは「コミュニケーション」、「チームワーク」を大切にして、「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」・「職種の理解」を学ぶ。教育技法として、チーム基盤型学習 (TBL : Team-Based Learning) を採用する。多学科混成チームで活動し、患者・利用者・家族・コミュニティの課題に取り組み、改善・解決策を検討する。本大学病院において看護師等の実務経験を有する教員が授業を行う。
78	生命倫理学	4	2	倫理学とはもともとギリシャではエートス（慣習）の学であり、生活の規則を研究対象とする学である。そして生命倫理学は、人間の生と死に関する慣習を扱う学問である。ただし、現在ではこの価値観は、医療の高度化に伴い再考や変更を迫られている。それゆえ現在の倫理観だけでなく、これから「どうあるべき」なのかを考察する。尚、本科目は大学病院等で医師・保健師・看護師の実務経験を有する教員が担当する。医学部との合同授業も予定している。
79	人間行動科学	4	2	人間行動科学は、「人間の行動を総合的に理解し、予測・制御しようとする実証的経験に基づく科学」であり、保健・医療のみならず、社会学や経済学などとも関連する大きな領域である。本講義では、人間の行動を理解するための理論や知識を、保健行動を切り口に学んでいく。それぞれの人に合った健康的な生活を送るにはどうしたらよいのか。どんな工夫や心理学的技法を用いると自分や他人の行動や習慣を効果的に変えることができるのか。やる気スイッチを入れるにはどうしたらよいのか。自らの習慣行動を振り返り、不適応行動をより適応的な行動へと変化させるのに必要な知識や技術を実践的に応用することにより、体験的な学習をめざす。さらに、患者や地域住民を対象とした生活習慣病およびストレス関連疾患の予防や健康づくり活動における行動科学の応用事例や課題についても学習する。なお、医療機関等において心理師としての実務経験を有する教員が授業を担当する。
80	統合実習	4	2	看護における専門分野の実践的活動の実際を学ぶとともに、チーム医療における看護職の責任と役割、他職種との連携、看護管理の視点に基づいたマネジメント、安全管理および危機管理の重要性を学ぶ。さらに、看護チームの一員としての看護実践を通して、創造的に看護を実践する能力を養う。なお、病院など医療機関において看護師の実務経験を有する教員が実習指導を行う。

実務経験教員担当科目一覧

看護学科

No.	科目名称	学年	単位数	科目概要
81	公衆衛生看護管理論	4	1	施策化への提言を踏まえた住民の健康レベルの向上を図るための管理・運営について理解し、地域管理のマネジメント機能、展開方法について講義する。保健師免許取得のため、選抜された学生が所定の単位を修得する。講義は遠隔授業で行うが、演習では対面で実施する。なお、保健所・保健センター等において保健師の実務経験を有する教員が授業を行う。
82	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	4	個人・家族・集団のセルフケア行動、保健福祉活動の機能と連携の実際を通して、地域(行政)の保健活動計画や健康づくり活動等から公衆衛生看護の役割を明らかにする。保健師免許取得のための臨地実習であり、選抜された学生が所定の単位を修得する。実習に関する資料は、紙媒体および資料配信システム、Microsoft Teamsにより配付する。なお、保健所・保健センター等において保健師の実務経験を有する教員が、地域の保健活動について授業を行う。
83	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	1	産業、学校、福祉施設における保健活動計画や健康づくり活動等の実際から、公衆衛生看護の役割を明らかにする。保健師免許取得のための臨地実習であり、選抜された学生が所定の単位を修得する。なお、保健所・保健センター・企業等において保健師の実務経験を有する教員が授業を行う。
84	医用機器管理論	4	1	医療には、多種多様な医療用機器が利用され、これらは治療、診断に欠かせないものとなっている。そしてそのほとんどは電気を利用しており、また、電子制御が可能なものが増え、利用者に優しくなりつつある。看護においてこれら電気を利用する医療用機器を使用する機会は多く、知らず知らずにその恩恵にあずかっている。この科目では、電気の利用に対する安全性、病院設備、医療ガス設備の基本事項と看護でよく利用される代表的な医療用機器を効果的に利用するための取り扱い、管理の基本的な事項について学ぶ。なお、本大学病院旧臨床検査部において、また、本大学病院臨床工学部において臨床工学技士の実務経験を有する教員が授業を行う。授業は対面で行うが、遠隔で実施する場合がある。授業で実施するTBLは、Moodleを用いる場合があるので、満充電したPCあるいはタブレットを持参すること。
85	看護と安全	4	1	看護職は、看護を必要とする対象者が安全で安心できる看護を提供する責務を有している。一方、看護職が求められる看護は多様化・複雑化している。このように拡大するニーズの中で、安全を保障し、質を担保した看護を実践するために必要な基礎的知識・技術を修得する。本科目は、看護専門職として臨床及び大学で実務経験を有する教員が授業を行う。一部、第一教育病院で安全管理を専門に従事している看護師の講義を受講する。
86	老年看護学実習Ⅱ	4	3	在宅および施設に入所、病院に入院している高齢者との関わりを通して、老年期の特徴と保健・医療・福祉の活動での看護の役割を理解し、必要な知識・技術・態度を修得する。なお、大学病院において高齢者看護の実務経験を有する教員が授業を行う。
87	災害看護	4	1	日本は地形の特徴から自然災害が多く、災害が発生した場合は人々の生活や健康に甚大な影響を及ぼすことをふまえ、災害の定義や分類・諸制度などの基本的知識について国内外の災害事例を紹介しながら講義する。被災者のおかれた環境を基盤に、災害サイクル各期で、個人あるいは集団に看護職が果たす役割について説明する。なお、本大学病院看護部において看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。
88	卒業研究	4	2	関心のある看護現象から研究課題を見出し、3年次の講義科目「看護研究方法論」で学習した研究的思考をもとに、倫理的配慮をもって研究に取り組み、結果を論文にまとめ発表する。その過程では1年から3年で培った看護学の知識や技術を創造的に発展させることになる。卒業研究に取り組む経験が、専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学習を生涯継続していく姿勢を身につけることに繋がることを期待する。主体的に研究をすすめることができるよう学ぶ。本研究は、各自のテーマに応じて各研究領域を選択し、指導教員の指導のもとに行う。なお、病院などの医療機関での実務経験を有する教員が行う。
89	看護管理学	4	1	看護管理とは、「患者にケア、治療、そして安楽を与えるための看護スタッフメンバーによる仕事の過程である(Gillies, 1986)」。全ての看護職にとって、良質な看護の提供や自らの課題達成のためには管理の視点が必要である。本科目では、看護管理の対象、目的、方法、看護組織を取り巻く社会への視点を学び、組織を構成し看護活動を実践する者として必要な能力について考える。なお、本大学病院看護部において看護師の実務経験を有する教員が授業を行う。

実務経験のある教員による授業科目：125単位

該当科目数：89科目